

# 大学生の娘が突然に…「真実を知りたい」母の思い

## 医療事故調査 5 年の課題

カンテレ（関西テレビ）2020年10月16日 放映

愛する家族が予期せず亡くなった時、その理由を知りたいと、誰もが願うと思います。こうした遺族の思いを受け、医療事故の調査を行う制度が5年前に出来ましたが、今も病院に不信感を抱くケースが相次いでいます。

その背景には何があるのか。制度の課題を探ります。



IT 技術者になるのが夢だった、  
大学生の金坂真希さん

去年、21 歳という若さでこの世を去りました。

なぜ真希さんは亡くなったのか、家族は今も真実がわからずに苦しんでいます。



【亡くなった真希さんの母親・金坂康子さん】

「私も次女も人生が変わって心が死んでしまった。時間が止まってしまった。病院はそのことをどんな風に思っているのかなと思います。」



手術の後、真希さんは脳死状態に

おとし 9 月、真希さんは突然頭痛に見舞われ、大阪市の淀川キリスト教病院に入院しました。診断の結果は「脳内出血」。主治医からは「2 週間ほどで退院できる」と言われていましたが、手術の後、真希さんは脳死状態に陥ったのです。

【金坂康子さん】

「主治医になぜこうなったのか原因を聞いても、原因はわからない、予測できないことが、ありえないことがあったということをおっしゃっていた」

なんとか回復してほしい。

藁にもすがる思いでセカンドオピニオンを受けるうちに、母親の康子さんたちは「病院の処置に問題があったのではないか」と思うようになりました。



別の病院の医師の話聞き、手術後の CT 検査で、異常な出血を見落とし、状態が悪化した疑いがあると考えたのです。

改めて主治医に説明を求めると、態度が一変。

「裁判を見据えているのでお話しはできません」(淀川キリスト教病院)

不信感を募らせた康子さんは、病院を相手に損害賠償を求める裁判を起こしました。真相究明のためには、この方法しかありませんでした。裁判の準備が進む中、真希さんはおよそ 1 年間の脳死状態の末に亡くなりました。

【金坂康子さん】

「まさかこんなことになるなんて。考えもしなかった。いまだにもちろん受け入れられないし、この子がいないという現実も考えられないですね。真相を知りたいと思うのは家族だったら当然のことだと思う。それすらできない。」

真希さんが亡くなったことで、康子さんらは 5 年前につくられたある制度を活用しようと考えます。



「医療事故調査制度」。

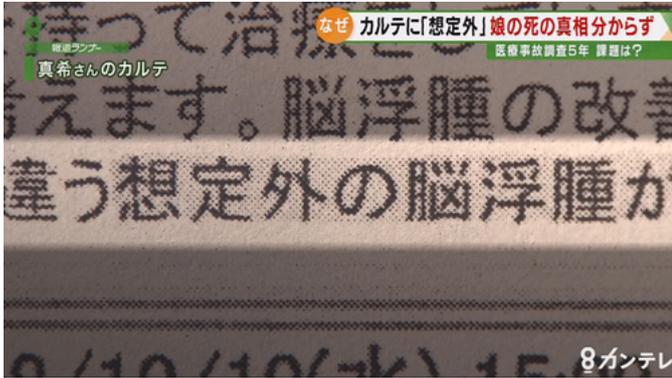
「患者が予期せぬ死亡をした場合、医療機関に調査を義務付け、遺族や第三者機関である「医療事故調査支援センター」に報告させます。

## 医療側にゆだねられた「予期せぬ死亡かどうか」の判断

医療機関の調査に納得がいかなければ、遺族はセンターに調査の検証を依頼することができます。ただし、そもそも「予期せぬ死亡かどうか」の判断は医療機関にゆだねられています。

### 【真希さんの妹・金坂英未さん】

「主治医からこういう説明があったという記載がある」



カルテに書かれた「想定外」という文字。

「予期せぬ死亡をしたケース」という調査の条件を満たしているように思えますが、なぜか病院側は、裁判中であることを理由に調査をしているかどうかすら教えてくれませんでした。第三者機関である医療事故調査支援センターに相談をしましたが・・・

### 【センターに電話する英未さん】

「センターから病院に聞くことはしない？」

センターは遺族の要望を文書で病院に伝えることしかできないと繰り返しました。

### 【金坂康子さん】

「センターに電話しても遺族の要望の伝達しかできない。じゃあこれをどこにもっていったらいいのと。本当に形骸化した制度ですね。」

## センター独自の調査は？

調査は医療機関任せになっている今の制度。センターが独自で調査をすることはできないのでしょうか。



### 【医療事故調査支援センター 木村壮介 常務理事】

「当事者じゃないとわからないことがたくさんある。患者の重症度や緊急性、スタッフ、設備、地域など加味しながらその場その場でやるのが医療ですから。これは事故だと外から決めつけるのは危険だし、難しい」

事故の再発防止のためには、当事者である医療機関が判断し調査をするのが望ましいという考えから、センターは独自で事故の調査を行うことも、医療機関に調査を指示することもできません。

【医療事故調査支援センター 木村壮介 常務理事】

それは遺族にとってつらいというか、納得して自分から動いてもらえないと調査にならないのは。何もしないのは(遺族は)けしからんと思う。それ以上進まないことになる。その辺はまだまだ問題は残っていると思います。」

遺族たちは先月 11 日、厚労省に対し制度の改善を求めて要望書を提出しました。真希さんが亡くなった理由を知りたいという思いが、康子さんを突き動かしています。

口を閉ざす病院

この日、再び淀川キリスト教病院に向かいました。センターから病院に、遺族が調査を求めているという内容の文書を送ったという連絡があったためです。

【金坂康子さん】

Q：病院は通知を院長が読んだと言っていた？

A：目を通したとおっしゃっていました。

Q：それをどう受け取ったかについては？

A：それは一切、弁護士に委任しているので何も答えられないと。その一言で終わりです。会話にならなかったです。何も変わらなかったです。

淀川キリスト教病院は関西テレビの取材に対し、「裁判中のため答えられません」としていて、裁判の中では「適切な処置だった」と主張しています。



より安全な医療のために作られた医療事故調査制度。  
真実を知るためのハードルは高いままです。